

教育目標		すこやかでよく遊ぶ、心豊かな子供の育成 ～子供の夢がかなう幼稚園～						
保育の視点		遊び込む子供の育成 ―遊び込む子供の姿を支える環境の構成―						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の再編成 	<ul style="list-style-type: none"> 幼小接続の視点からの教育課程の確認及び検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員で意見を出し合い、自園の子供の実態に合わせ、確認検証をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 伊丹市全園共通の教育課程のため、子供や園の実態と合わない点も出てきている。伊丹市全園共通の教育課程と自園の実態をどうあわせながら進めていくかが今後の課題である。 伊丹市の架け橋期のカリキュラムと照らし合わせた指導案を各学年立て、園内研を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会の中で、子供の姿の話をしながら、学期ごと、学年ごとに見直し、伊丹市全園共通の教育課程と照らし合わせながら自園の教育課程を検討していく。 また、5歳児と小学校の架け橋期のスタートカリキュラムについての研修を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供達の実態に応じた環境づくり、教育課程が進められており、架け橋期のスタートカリキュラムについても小学校に対して積極的に働きかけている。
	研究推進	<ul style="list-style-type: none"> 子供の豊かな心を育む保育の実践 幼小の連携を意識した保育の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育から遊び込む子供の心の動きを捉え、その子供を支えるための環境構成のポイントを探る。 幼小連携を図るために職員同士が互いの授業や保育を見合う機会を設ける。また、園内研究会などを通して学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回程度園内研究を行い、環境の構成(人的・物的を含めた)のポイントについて学び合う。 共同研究園とともに研究テーマについて成果と課題をリーフレットにまとめ、研究の成果を職員全員で共有し、研究発表会で発表する。 「子供は幼稚園でやりたい遊びを見つけ、存分に遊んでいる」の保護者アンケートのAB評価が80%になるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは、AB合わせて90%以上が子供は幼稚園でやりたい遊びを見つけ存分に遊んでいると捉えられており、子供のやりたい気持ちをかなえられる環境構成を工夫する取り組みが、遊び込む姿につながっていると考えられる。 共同研究園と講師を招聘した園内研を計画的に実施し、子供の育ちを学ぶことができた。また、共同研究園での「遊び込む子ども」に必要な指標等について3園の職員で見直し、整理しリーフレットにまとめ、研究の成果を発表することができた。 年度当初に小学校教諭と年間の大まかな計画について打ち合わせをして進めることができた。 保育公開を含め、小学校教諭とともに架け橋期の地域部会に2回参加し互いの取り組みを学ぶことができた。また、子供同士の交流では、幼児が興味をもったことを、その都度1年生や小学校教員に聞く等し、小学生も幼児について知りたいことを直接聞きに来てくれる等、双方の学びにつながる接続を意識した連携をすることで、小学校への期待を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にもICUCOでのクラスより配信や懇談会や掲示などを通して子供の成長を適宜伝えていく。 共同研究園で「遊び込む子どもの育成」というテーマでの3年間の研究は一区切りとなる。来年度は新たな形で子供の実態に即した研究テーマを考えていく必要がある。 今後も計画を立て、子供同士や職員の交流について十分に意見交換をしながら連携し、架け橋期の接続について共通理解していく。幼稚園教諭においては、スタートカリキュラムについて学びを深め、保育の学びが学習の学びにつながるか振り返りながら保育を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児の保育室には、小学校入学を見据えた環境の構成を行っていることが分かった。このような、配慮をもっと保護者にも伝えていくとよいのではないか。
豊かな心・健やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 感染症予防に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の実態を把握し、子供が必要感をもって自ら身体を大切にしようとする姿になるよう、担任と養護教諭が連携し、毎月保健指導(ほけんの話)を行う。 生活習慣の定着に向けて家庭でも意識して取り組むことができるよう、保健指導の内容を基にしたげんきカレンダーを実施していく。 保健指導、ほけんだよりで健康課題について啓発していく。 「自分の体は自分で守る」ことが意識できるよう、視覚的教材等を活用・掲示し、園児が自ら健康について興味関心をもちながら、生活習慣の自立につながるよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供が自分の身体に関心を持ち、大切にしようとする気持ちを育む保育について取り組む。「子供は、身支度や排泄等、自分のことは自分でしている。」の保護者アンケートのAB評価が80%以上になるようにする。 家庭と連携を取りながら、内容に応じてげんきカレンダーに取り組んでいく。 保健指導(ほけんの話)の内容についてホームページ等に掲載する。 規則正しい生活習慣を身につけ、自ら感染症予防ができるようにする。 「子供は自ら自分の身体や健康について意識しながら行動することができる」の保護者アンケートのABの評価が80%以上になるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「子供は、身支度や排泄等、自分のことは自分でしている。」の保護者アンケートのAB評価が97%以上と80%以上の評価を得た。 子供の実態や課題に合わせて保健指導の再検討を行い、園児の身につけたい生活習慣の内容についてはげんきカレンダーを持ち帰り、家庭で取り組んできた。 「子供は自ら自分の身体や健康について意識しながら行動することができる」の保護者アンケートのABの評価が74%と80%に満たなかった。しかし、子供の姿から手洗いしながら「手洗いはかぜバイ菌を体に入れないため」などと話しており、身体を守るための行動として捉えている姿は見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教職員で子供の自立に向けて課題を共有し、子供の発達段階に合わせてながら生活習慣の定着を図る。 必要に応じて今後もげんきカレンダーを取り入れていく。 保健指導の中での子供の発言からも各月のテーマに関係する情報を知らせる発言が多く見られることから、知識が身体を守るための行動につながるよう保健指導の方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活の確立については、子供達へのきめ細かな働きかけや場づくりによって、達成目標に対して一定の成果が見られた。 自然に触れる機会を大切に、観察や栽培などを通して身近な生き物に思いを寄せる姿があった。 今後は子供達の性教育にも力を入れていかなければならないのではないかと。自分の体を大切にするという観点で保育にも取り入れられるとよい。(人権教育・健康教育・保護者への啓発等)
	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わりや伝え合いに視点を置いた保育実践 	<ul style="list-style-type: none"> 子供、保護者ともに互いに認め合える人間関係を築くことができるよう園が拠点となって呼びかけていく。 教師の道徳性を高め、研修を通して人権感覚を磨く。 花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整え収穫の喜びや命の尊さ等を感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供が日々の生活の中で自分の気持ちや友達への思いに気付いたり振り返ったりする機会を保育の中で作り、周りの人から愛されていると感じ、人との様々な関わり方に気付く。 保護者に向けて学級懇談会や研修の機会に自身の子育てを振り返り、いろいろな立場の人の考えに触れられるような場を設定する。 年に2回、人権に関する北部ブロック研修会に参加し、教師間で話し合ったりすることで人権意識を高める。 花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整える。 飼育栽培活動を行い、一つ一つに命があることを知り、命を大切にしようとする姿が増える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子供の実態や発達に応じて機会を捉えて自分の気持ちを表現したり、友達の思いを考えたりすることを保育に取り入れてきた。 学級懇談会・書面研修において子供の人権について考え、意見交流の場をもつことができた。保護者からは日々の子育てを振り返り、子供の権利について考える機会になったという意見を得た。 北部ブロックの研修会や阪同教・伊同教に参加し学んだことや感じたことを職員間で共有した。 クラスごとに様々な生き物を飼育し、世話や観察を通して命の大切さを感じる機会を作ることができた。栽培に関しては、年間を通じての取り組みには工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も一人一人を大切に保育に努められるよう、教師間で共通理解を図る。 保護者とともに身近な人権について考え、互いの考えを知る機会がもてるような学級懇談会や研修の方法を工夫する。 教師自身の道徳性を磨き、人権感覚を高めるための研修会に積極的に参加していく。 一年を見通した栽培計画を共有し、整備等にも子供とともに取り組み、四季を感じながら直接体験を得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は子供達の性教育にも力を入れていかなければならないのではないかと。自分の体を大切にするという観点で保育にも取り入れられるとよい。(人権教育・健康教育・保護者への啓発等) 個別の配慮については、年々、職員の業務も大変になっていると思う。職員も子供達も無理のない範囲で取り組まれるのがよい。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 子供一人ひとりの特性に応じた保育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児理解に努め、子供同士のつながりや一人一人の育ちにつながるよう支援していく。 地域の特別支援教育の拠点として、特別支援教育に関する保育や情報を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の姿に応じて、具体的な支援方法や保育内容を検討し、実践する。また、保護者と園の取り組みや家庭での様子を伝え合い、園と家庭が連携して子供を支えることができるようにする。 コンサルテーション等を活用し、園内だけでなく他方面からの子供の捉えと支援方法を検討していく。 にじいろ広場の保育の様子を地域の就学前施設に公開し、参加の呼びかけをする。また、参加者以外にも研修等で学んだことをにじいろだよりで年2回発行する。 特別支援教育の研修会への参加や保護者研修会を実施し、保護者、教職員ともに子供との関わりや支援方法をより深く学ぶ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 担当者間で2週間に1回子供の様子や課題などを共有する時間を設けた。子供の育ちや支援方法の共有等をはかりながら担任と連携して支援にあたることができた。 特別支援教育研修会への参加、伊丹特別支援学校のコンサルテーションや兵庫教育大学鈴木正敏教授に来園していただき、専門的な指導を受け、支援につなげる方法を学ぶことができた。 にじいろ広場を全6回開催しその都度ににじいろだよりを発行した。担当者間で子供達に経験させたい動き、体験ができるように自園にない遊具を他拠点園から積極的に借用し、本園のにじいろ広場に取り入れた。 年2回保護者研修会を開催した。就学に関すること、普段園でしている遊びやにじいろ広場でしている遊びが就学に向けてどのような力につながるかを保護者・教職員が学ぶ機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 園務日程等に計画的に担当者間で話し合う時間を位置づけ、子供達1人1人に丁寧な支援ができるようにしていく。 幼児理解を深め、支援方法を探るため、継続して特別支援教育研修会への参加、コンサルテーションの活用等を行い、自己研鑽に努める。 にじいろ保育利用者へのみ、にじいろだよりを発行している。拠点園として全保護者へ発行できる内容を検討する。 各園の実態や保護者の興味関心からも研修テーマを考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供一人ひとりを丁寧に見るだけでなく、保護者との密な関わりを実践している。

開かれ信頼される学校園	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 教育への理解へと繋がるような保護者、地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育や園庭開放等を通して、子育て支援の充実を図るため、さらに保護者、地域、園の連携を深める。 保育システムを利用した配信、園だより、クラスだより、HPなどを通して子供達の様子を発信することで園教育への理解を図ると共に、必要に応じて気軽に子育ての話ができるような体制を作る。 学校運営協議会や地域行事、会議等に参加し、学校や地域との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「幼稚園は開かれた園として職員に子供のことについての相談や話がしやすい環境である」の項目のAB評価が80%以上になるようにする。 毎月1回以上HPや動画配信等その時々に応じた方法を工夫し、園の教育や大切にしていること、子供達の様子等を発信する。 年間7回程度学校運営協議会や地域の会議等への参加や、年間2回発行の広報誌を通して園の教育を地域に伝えていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて預かり担当以外の職員も関わりながら職員間で連携を取り合い、預かり保育の充実に努めた。保護者の就労が増加し、保護者のニーズに答えるよう努めてきたことで、AB評価が94%の評価を得た。個別支援が必要な園児の利用も多く、特に長期休業中の預かり保育においては、複数の職員配置が難しい現状がある。 クラスだより等で子供の学びや育ちを細やかに伝えたり、動画配信やHP等で園の取り組みや子供の様子を発信したりしてきた。 小学校、就学前施設との自然な交流を図ったり、地域行事や会議等に参加し、教育の推進について共有したりする中で、連携を図ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、担当者との連携を密に図りながら必要に応じて全職員で預かり保育に関わることで子育て支援の充実に取り組んでいく。長期休業中の職員配置については、動静を決める際に決め、安全管理に配慮しながら実施できるようにする。 動画配信は引き続き行事だけでなく日々の保育の中で、その時伝えたい子供の様子を配信していく。 小学校、就学前施設、地域との連携を密にし、研修会や園児の交流を更に深めながら、発信を続けていく。
その他	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検日を園務日程に記載して位置づけ、職員の意識向上を図る。 様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子供と考える機会を定期的に設ける。 保護者、地域と共に安全な環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回安全点検を行うことで、全職員の目で日頃から安全管理に努め、遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。 学期に1回以上の避難訓練を実施し、子供が自分で自分の身を守る方法を知る。 保護者や地域の方の協力も得て、園庭清掃に取り組む。(10月) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の安全点検を行い、修繕箇所についてはすぐに連絡調整を行い改善に努めた。 保護者アンケートで「こどもの安全に関する適切な指導が行われている」という項目のAB評価が83%であった。 避難訓練を実施したり、安全教育を取り入れたこと、子供自身が緊急時に自分の命を自分で守ろうとする意識をもち、周りの大人の指示に従い行動できるようになってきている。 園庭の環境整備のため、保護者や地域の方の協力を得て園庭清掃、伸びた木の枝の伐採などを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園舎や園庭を含めて老朽化もあり、いたる所で不具合が出てきているので、月1回の安全点検以外の日々の生活の中で常に安全意識をもち、改善箇所については速やかに伝える、共通理解出来るようにする。 引き続き震災や不審者対応等に備え、教職員で緊急時の対応について共通理解を図り、必要に応じてその都度訓練を実施し、子供が自分で命を守ろうとする意識を高めていく。 幼稚園で講じている安全教育や安全対策について保護者にも定期的に啓発し、園内園外問わず子供を取り巻く大人が子供を守るという意識を高めることができるように働きかける。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 子供達一人ひとりを大切にされた保育を実践されていることが素晴らしい。特に、一つ一つの活動の目当てと、その振り返りを日々行っていることに頭が下がります。この積み重ねを大切にされたことで、探求心が旺盛で、意欲的な子供達に育っているのだと思います。 特段の配慮を要する子供の割合が年々増えているように感じます。人員が不足しているようにも感じます。 研究はひとつの区切りがつかれるとのことですので、先生方のモチベーションがあがるような研究体制ができるとよいですね。 おぎの幼稚園はやはり小学校との連携がしやすいので、小学校との合同研究などをされてもよいのではと思う。 運動会では元気いっぱい演技をする子供達に感動しました。伝承遊びの会では子供達とすごろくやカルタなどをして楽しく過ごしました。地域との花の苗植えでは、今年子供達がパンジーなどを植え、学校や家庭・地域の人と一緒に力を合わせて幼稚園の美化に努められたのではないのでしょうか。今年度は子供達が主体となって活動するのが見られました。また、行事を通して横のつながりだけでなく、縦のつながりもできていると思いました。これも先生方が日々研鑽され実践された賜物だと思います。 						